勤務医コーナー

◉勤務医に関する話題や投稿などで構成するコーナーです。勤務医生活の雑感、あるいは意見をこの欄にお寄せください。
◉投稿要領…700字程度、名古屋市昭和区妙見町19－2、愛知県保険医協会「勤務医コーナー」係まで。薄謝進呈致します。

すずと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい
（金子 みすゞ）

千種区　石川 達也

この二月から三月にかけて、生命倫理関連の報道が二つあった。一つは、「旧優生保護法」（一九四八―一九九六年）と「除斥期間」に関わる大阪と東京の高裁判決。強制不妊の規定は違憲であり「除斥期間」の適用を認めず賠償を国に命じた。〝不良な子孫の出生を防止する〟目的で、中絶も合わせて数万人に手術を強い優生思想を強化してきた国。判決を真摯に受けとめず不服として最高裁に上告した。

もう一つは、NIPT（non-invasive prenatal genetic testing：非侵襲的出生前遺伝学的検査）新指針を日本医学会・運営委員会が公表。メディアが「新型出生前診断」と用語を誤って報道することもあるNIPTは、胎児の〝いのちの選別〟に関わる問題を含み、日本小児科学会等々が懸念している。新指針は、①対象者を広げ、母子健康手帳交付時に情報提供、②連携施設を認証、③国が関与―と矛盾がより拡大したと思われる。

NIPTは、精度の高い非確定的検査として二〇一三年に臨床研究として導入された。二〇一六年より、遺伝カウンセリングを全く行わずNIPTのみの無認定クリニックが急増（二〇二〇年以後では百八認定機関より多）、大きな問題になっている。妊婦の中には不安・苦悩のため精神科を受診、との報告も多い。日本で高年妊娠が増加しているにも関わらず、ダウン症候群児出生数は二〇一〇年以降横ばいであった（Am J Med Genet 2019）。陽性判定の九五％以上が中絶していることを反映しているのであろう。

ダウン症候群の人は、穏やか・正直・善良などの資質を持っていることが多い。日本ダウン症協会の会員アンケート調査によれば、成人の約八人に一人は雇用に到達している（日児誌二〇二一）。これらの実態は一般の人たちにほとんど知られていない。

日本遺伝カウンセリング学会と日本人類遺伝学会が共同認定する認定遺伝カウンセラーは三百十八名（二〇二一年十二月）、臨床遺伝専門医は一千六百五十一名（二〇二二年三月）に過ぎない。妊婦が限られた時間にかなり高度で広範な医学的説明を受け、自己決定することは容易ではなかろう。願わくは、子どもを選別しないでほしい。